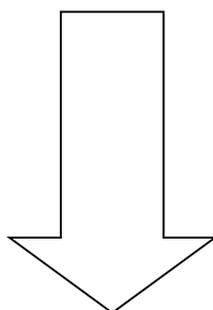


令和5年度 文京区立柳町小学校 授業改善推進プラン 4年

	育てたい力	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書くことや、工夫しながら書こうとすること。</li> <li>・基礎・基本の学習を活用すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の意見やその理由」「条件に合わせた物事の説明」「事実と意見を分けた記述」など、目的に応じた短文を書く活動に焦点を絞り、継続して日常的に取り組むようにする。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びを意識した授業を展開する。特に、読みの単元においては、考えを書いたり友達と話し合ったりする場を必ず取り入れ、考え表現する時間の確保を心がける。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活の様子や仕組みなどの基礎的な事項を理解すること。</li> <li>・資料を読み取り、正しい知識を用いて、考察したり表現したりすること。</li> <li>・児童が主体となって学習課題について追及すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活体験や既習事項と比較したり、関連付けたりして理解が深まるよう授業を構成し、教材を工夫する。</li> <li>・グラフ、写真、表など視覚的に分かる資料を提示し、そこから何が読み取れるかについて視点を明確にして考えさせる。</li> <li>・「問題に気付く→学習課題を作る→計画を立て、学習問題を追及する→まとめる」という学習の流れを明確にして、定着できるようにする。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題意を正しく理解して立式したり、問題を解決した後、それが問題場面に合っているのか確認したりすること。</li> <li>・自分の考えを周囲の友達に、分かりやすく伝えようとしたり自分の考えと比べて聞き、意思表示したりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四則計算の意味を確認し、文章題の場面を正しく表現できるようにさせる。また、解決できたら問題場面に当てはめて確認したり検算したりするように繰り返し指導し、解いたら確認するという意識を育む。</li> <li>・自分の考えに自信をもって発表することができるよう、少人数やグループでの交流を行ってから、全体交流の時間をもつ。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の結果から、結論を導き出すこと。</li> <li>・根拠を示して論理的に表現すること。</li> <li>・学習したことを日常生活に結び付けて考えること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「課題→予想→実験計画→結果→考察」の問題解決の流れが明確になるように、板書やノートをまとめられるようにする。</li> <li>・自分の考えをまとめる時間を確保し、言葉だけでなく絵、表、図で表現できるようにする。</li> <li>・身の回りの事象を、働きや時間などと関係付けて考えることができるようにする。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を工夫して各種の運動を楽しくできるようにすること。</li> <li>・協力、公正などの態度で運動に取り組むこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の主体的な発言を基にルールを変えたり、技能を向上させる方法を指導したりすることで、運動の楽しさを味わい、児童主体の学習となるように指導する。</li> <li>・準備・片付けの手順やルールの改善などで指導や話し合いが必要な際は、十分に時間を確保する。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的価値について自らすすんで考えたり、自分自身について振り返ったりすること。</li> <li>・友達と考えを交わした上で、それを自分の中でさらに考えを深めてノートに書いたり、表現したりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1単位時間ごとの教材研究を十分に行い、児童が主体的に考えようとする発問・展開を準備する。</li> <li>・自分自身のことをじっくり振り返ったり、道徳的価値について考えを深めたりするために、時間配分に留意し、特に振り返りの時間を、十分に取入れるようにする。</li> </ul>

総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じて、様々な資料や方法で学習を進め、有効に活用すること。</li> <li>適切に ICT を活用し、課題に対して追求すること。</li> <li>相手に応じて表現を工夫すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書資料、新聞、インターネット、インタビューなどの基本的な利用方法や技能の指導を積極的に授業で取り扱う。</li> <li>探究課題について知る場面や調べる場面、まとめる場面、深める場面それぞれで ICT を効果的に活用する。</li> <li>伝えたい思いや発表する相手に応じて選択できるよう、発表方法を例示する。</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取ること。</li> <li>学習した単語や構文を活用し、すすんでやり取りすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イラストや写真などから聞き取れるようにしたり歌やチャンツを通して慣れ親しんだりする。</li> <li>動画教材の視聴や歌やチャンツなどに十分に慣れ親しませ、やり取りさせたい表現を絞った上で交流させる。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲想と音楽構造の関わりに気付き、表したい音楽表現をするための技能を身に付けること。</li> <li>音楽表現を工夫し、どのように表すか思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにすること。</li> <li>すすんで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら様々な音楽に親しむこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業のねらいを明確にし、旋律、リズム、強弱、速度、音色などと曲想との関わりについて気付くようにする。一人ずつ聴く機会や発表方法を工夫する。また、互いの声や音を常に聴き合うことを意識するようにする。</li> <li>音楽を聴いて感じたこと、気付いたことを基に、互いの思いを共有しながら表現の工夫につなげられるようにする。また、曲や演奏のよさを伝えるためにも言語活動を大切にし、児童の発言を生かした言葉や曲想を表す言葉を掲示し、音楽的語彙を増やしていく。</li> <li>互いに聴き合ったり、友達と合わせたりする楽しさを味わえる活動を増やす。表現、鑑賞の活動をバランスよく行い、生活と音楽の結びつきを意識できるようにする。器楽ではスモールステップ、発展教材を用意し、個に応じた取り組みができるようにする。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な材料や場所から、自ら造形的な活動を思いつき、表したいイメージをもったり、表し方の工夫を考えたりしながら手や体全体を動かし工夫を重ねること。</li> <li>身近にある作品から、造形的なよさや表し方の工夫などを感じ、自分の見方や感じ方を広げること。</li> <li>自分の表したいことを見つけ、主体的に表現すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が活動しやすい場の設定を考える。個人でつくるだけでなく、友達と共同で行う造形活動も取り入れていく。</li> <li>鑑賞の際、いくつかの視点を提示し、気付きを深め、お互いのよさを認め合うことができるよう指導にあたる。</li> <li>発想の補助となるような資料やワークシートを適宜用意する。また、材料との出会い方の工夫をする。</li> </ul>



	成果○ と 課題▼
国語	<p>○根拠や理由をはっきりさせて、自分の考えをまとめることができるようになってきた。</p> <p>○中心となる語や文に注目したり、場面の移り変わりを意識したりして、目的や文章の種類に応じて読むことができるようになった。</p> <p>▼引き続き、必要感のある交流場面を設定し、児童がすすんで自分の考えを話したり周囲の意見を聞いたりすることができるようにする。</p>
社会	<p>○単元や授業の始めに児童の問いが生まれるように資料や発問を工夫した結果、一人一人が疑問や追究意欲をもつことができ、すすんで学習に取り組むようになった。</p> <p>○ICT 機器を活用して図や表、資料のどこに着目するか視覚的に明確にしたことで、資料から分かることや考えられることを正しく読み取り、表現することができていた。</p> <p>○問題解決型の学習の流れを理解し、児童がより主体的に学習に取り組むことができた。</p> <p>▼学習問題に対して調べたことをまとめた後に、社会との自分の関わり方について考える学習を更に充実させる。</p>
算数	<p>○文章題では、数直線を活用して立式させたり、計算をしたら問題の場面に合うか確認させたりすることで題意を捉えて問題を解くことができた。</p> <p>○自分の考えに自信をもって発表できるよう、考え方を交流する前に答えを確認したり、ペアやグループの交流の後に全体交流を行ったりすることで、自信をもって説明する姿が見られた。</p> <p>▼授業中には正しく問題解決ができる児童が多いが、領域によっては、学習内容の十分な定着のための時間を十分に確保する。</p>
理科	<p>○観察では、年間を通して、同じ記録用紙を使用させたことで、児童がすすんで活動に取り組んだり、植物の変化によく気付いていたりした。</p> <p>○実験では、結果や考察などの書き方を繰り返し指導してきたので、児童は、問題解決の流れを意識できるようになった。また、なぜその予想なのか、自分の生活体験や既習事項を想起して予想を立てることができる児童が増えてきた。</p> <p>▼実験方法を考えたりや物事の予想を立てたりした際、予習等で知識がある児童の複雑な方法に偏ってしまった。児童のだれもが理解しやすい方法にしていく。</p>
体育	<p>○チームで練習をしたり、ゲームの作戦を考えたりするなかで、互いの技能差を踏まえた役割決定を行ったり、ルールを工夫したりし、より楽しめる学習とすることができた。</p> <p>○学習カードを使うことで、児童一人一人がめあてをもち、学習の振り返りができた。次時や単元全体を通じて意欲の維持、向上につながった。</p> <p>▼個別の課題に対して、どのようにしたらできるようになるかを的確に助言したり、練習方法を提示したりするなど、今後も工夫していく。</p>
道徳	<p>○道徳的価値に迫る振り返り、自分自身についてじっくりと考える振り返り、など、教材や内容項目によって展開や発問を工夫したことで、自分自身や道徳的価値とじっくり対峙することができた。</p> <p>▼児童の発達段階や生活経験の差によって、道徳的価値への理解が深まったり広がったりしない場合もある。また、自分自身について素直に振り返ることが難しい児童もいる。教材提示の方法や考えを深めるための追発問、板書の視覚化など、教材に合わせて工夫する必要がある。</p>
総合	<p>○図書資料や百科事典、新聞、インターネットなど多様な調べ方を取り入れる中で、それぞれの良さや使い分けを工夫する姿が見られた。</p> <p>○タイピングのスキルや画像データの活用など、ICT機器の活用に支援が必要な児童が例年に比べて少なくなり、低学年からの学習の積み重ねが見えてきた。</p> <p>▼探究課題について、一般論ではなく自分との関わりの中で、考えや行動が自己決定していけるように、選択の幅や児童への発問を工夫していく。</p>
外国語	<p>○歌やチャンツに繰り返し取り組んだことで、間違えなどを恐れて受動的になる様子が減り、ジェスチャー等を交えて能動的に友達と関わる姿が増えた。</p> <p>○本時に慣れ親しませたい表現を絞ってコミュニケーションの楽しさに気付いたことで、主体的に学習に取り組む様子が増え、基礎的な単語や文を理解することにつながった。</p> <p>▼活動を始める際の説明の部分につまずきを抱える児童がいる。ジェスチャーやモデルワークを取り入れて児童の理解を促し、スムーズに活動に取り組めるようにする。</p>

音楽	<p>○授業のねらいを明確にし、児童の様子の見取りやワークシートでのふりかえりを通して個々の到達度と課題を把握することができた。</p> <p>○歌唱、器楽、鑑賞、音楽づくりと年間を通してバランスの取れた学習内容に取り組むことができた。リコーダー学習はICTを有効活用できた。また、グループ活動による音楽づくりや意見交流が有効だった。</p> <p>▼個々の歌唱やリコーダーなどどのように表したいか思いをもたせ、そのための技能の習得や奏法の工夫の必要性を児童自身が主体的に感じ取り、生かしていけるような声かけ、指導を心がけていく。</p>
図工	<p>○友だちと協力しながらつくることを楽しむ姿が多く見られた。</p> <p>○材料体験は楽しんで感じ取っている姿が見られた。</p> <p>▼発想がなかなか湧かない児童への個別の手立てをもう少し豊富にもち、必要に応じて視覚資料などを示せるように準備していく。</p>